

第2回検討会の議事の要旨

〈平成17年1月26日 員弁庁舎会議室〉

～アンケート中間集約の結果を事務局報告～

【座長】

アンケートについて中間集約の結果を報告いただいた。今後の2次分析方法に関して議論いただきたい。

【委員】

いなべ市としてどのような方向、コンセプトでバス運行を考えているか。

【事務局】

創発調査事業として本検討会を開催しており、この中で議論いただきコンセプトを決定したい。

いなべ市としてはバス交通施策を長期的な視野で捉えており、近隣市町で運行しているコミュニティバスを想定している。例えば、鈴鹿市では、地域とじっくり協議した上で、試験的な運行を数年行っている。いなべ市全体を考えるとかなりの路線数が予想され、1、2年で全路線を運行するというのではなく、コンセプトを決定し、来年度以降に実施計画を検討し、段階的に実証運行へと進むプロセスを考えている。

～鉄軌道との連携について事務局説明～

【座長】

鉄軌道とバスの結節について、結節すべき駅の候補など自由に意見をいただきたい。

【委員】

北勢線駅、三岐線駅間をバスで結ぶには、途中で道路幅が狭い、あるいは進入道が狭い駅があるなど問題があり両鉄道間を結ぶことは検討が必要。三岐バスでは現在、三里駅、いなべ総合学園間を1コインで走っている。この4月からは大泉駅、いなべ総合学園間が計画されている。

【座長】

終着駅である阿下喜駅は結節駅だと思うが、その他中間駅におけるバスの結節について議論いただきたい。

【事務局】

北勢線大泉駅、三岐線三里駅のいなべ総合学園へのバスについて情報をいただきたい。いなべ市としては、大安町の住民が北勢線を利用する、あるいは員弁町の住民が三岐線を利用するために便利な公共交通が必要だと認識している。いなべ市がコミュニティバス運行を検討する際、バス事業者の路線との重複は避けたい。

【委員】

大泉駅・三里駅のバスは学生の交通確保と駅周辺の活性化を目的としており、採算は考えていない。従って運行本数も朝夕1往復の想定で昼間運行する計画はない。いなべ市がこの区間でコミュニティバスを運行されればありがたい。

【委員】

道路網が整備されている中、公共交通機関の利用は少なく北勢線にしてもバスにしても市が赤字を補填している。本当に交通面で不自由でありバス路線を必要とする地域に、市が路線設定し

た方がよいのではないか。

【事務局】

来年度以降、市民の皆さんと協議しながら具体的に実証運行路線を検討し、その後バスを走らせていく中で、ある路線が実証運行段階で空気を運んでいるような状況であれば、その路線を見直すことも考えられる。厳しく納税者の立場にたって検討していく。

【委員】

今、現在も自主運行バスの中には空気を運んでいるようなバスがあると聞いている。

【事務局】

他市を例に上げると、自主運行バス路線の赤字が大きく、どういうバスなら利用するのかと十分に地元と話し合われた上でコミュニティバスを運行しており、いなべ市でも地元と協議しながら進めていく方針であり、その過程の中でバス路線としての存続自体を検討する場面もあるかもしれない。アンケートの回答の中には、バス路線はいらないという意見もあったが、交通のミニマム保障という考え方に立ち、財政面も踏まえて検討していかなければならない。

～駅の結節機能とバス車両について事務局から説明～

【座長】

資料では阿下喜駅を事例に取り上げているが、駅の結節機能についての意見、またはバス自体に関する意見を伺いたい。

現在、阿下喜駅の整備についてはどういう状況か。

【事務局】

現在、阿下喜駅では21台の駐車場と96台の駐輪場が整備されている。さらにコミュニティバスが結節されることになれば北勢線利用増進が期待される。

【座長】

駅前結節機能として最小限必要なもの、あるいはもっと便利になると思われる機能があればご意見を伺いたい。

【委員】

阿下喜駅の現状を見ると学生の送迎車が多く、道路上で乗降されている方も多く危険である。駅前ロータリーは広く取ったほうが良いと考えられる。

【座長】

バス車両の機能や規模は、需要、路線に合わせて決定されると思われる。デザインについては、市民が乗って育てていくというイメージが必要。バスの機能、デザインについて意見をいただきたい。

【事務局】

事務局としては特に案はもっていないが、高齢者にわかりやすい、乗りやすい、親近感が湧くようなバスがよいと考えている。また、独自性をもったデザインが望ましいと思っている。

～運行形態、利用者負担について事務局から説明～

【座長】

新市に合併後、人の流動に変化があるか。

【事務局】

祭り・イベントなどでは旧他町から多くの方が参加しているとの話しはあるが、いなべ市は大きな人口密集地や施設集中地域がないので極端な人の流れの変化はないと思う。

【座長】

利用者負担については、アンケートでは負担してもいいという意見が多かったようだがご意見をいただきたい。

【事務局】

現行の大安町で運行されている無料福祉バスは、高齢者が対象であり、通院、買物、駅へのアクセスという機能と福祉施設のデイサービスへのアクセスという機能があり、前回の検討会で、この福祉バスを全市に展開することは財政的な面から無理なのではないかという意見がでた。また、いなべ市で生活するには自動車免許をお持ちでない方が交通不便であるという意見もでた。従ってバスの機能・目的の役割分担が必要だと考えている。例えば、駅への結節、通院、買物へのアクセスは高齢者に限らず日常的な需要であり、ミニマム保障としてコミュニティバスの検討が必要であり、福祉施設の送迎など社会福祉協議会事業とのすみ分けを整理し、トータル的にコストが低くなるように検討していきたい。

【委員】

バス運行は公的負担が必要になるが、バス交通の基本として福祉を優先に考えるか、採算を重視するか、どちらに主眼を置くのか。バス停をスーパー、ショッピングセンターに設置することで企業の利益が上れば企業から負担していただくような仕組みはないのか。最終的には公的負担に加え、民間・個人負担で賄っていくと考えている。

【座長】

今回の委員会では、バス、鉄道を使って地域の活性化を図ることが大きなテーマとなっている。いなべ市でバスを運行する場合、こんな考え方があるという幅広い意見をお願いしたい。

【委員】

市民全体が公共交通機関を利用する意識を高める運動を展開することが大事ではないかと思う。

【事務局】

北勢線に関しては現在、国交省の補助による高速化事業や市による駅前整備を行っている。また、市民団体が活発に利用促進運動に取り組んでいる。バスも鉄道と連携して運動を高めていく必要がある。

他市を例にとると、企業がバス停の場所を提供したり、地域住民がバス停を作り維持管理しており、自分たちのバス停、自分たちのバスの意識を高める活動をしている。

【座長】

自治体と地域が一緒になってバス停を作り、利用促進運動を行っていけばマイバス意識を高めることができる。

【委員】

バス停を設けない、あるいは簡易なバス停の設置によるバス路線の可能性はないだろうか。

【委員】

バス事業者の路線の場合、バス停をきちんと確保されている。フリー乗降は道路事情を調査して支障がなければ可能であるが、通常なんらかの支障がある。コミュニティバスの場合法的な規制はなく自治体の裁量でフリー乗降はできる。しかし安全面を考えると難しく、実際は既存バス路線と同様な運行をしているのが現状である。

【座長】

フリー乗降によるドアツードアは便利だと想像できるが、地方都市でも交通量が増加してフリー乗降は難しくなっている。

公共交通機関の利用促進では北勢線で力を入れていただいているが、その駅に連絡されるバス路線も利用促進が必要になる。

公共交通全般に関してご意見を伺いたい。

【委員】

北勢線の駅を少なくすることによる運行時間の短縮効果を教えていただきたい。
また桑名駅乗り入れに関する見通しを聞きたい。

【委員】

六石駅を廃止し、大泉東駅、長宮駅が統合された。近鉄運行時は、阿下喜駅から西桑名駅間5分2秒であったが現在では最短で4分9秒である。今後、高速化工事・曲線改良を施して、最終的には4分2秒が目標である。

【事務局】

桑名駅乗り入れについては、平成17年度以降検討されるということである。

【委員】

北勢線の本数を増やしていただきたい。1時間に1本では利用しにくい。

【委員】

現状は楚原駅から阿下喜駅間は1個列車しか入れない。阿下喜駅の2線化などで楚原駅から阿下喜間1分35秒で次の列車が出せるようにしていきたい。

【座長】

中心市街地、あるいはまちの活性化の観点からご意見をいただきたい。

【委員】

いなべ市では少子高齢化、人口減少を踏まえた対応が必要である。全国的にコミュニティバスは住民福祉のために走らせており採算性を求めることは難しい。

今後さらに高齢化が予想され、高齢者の自動車運転は危険であり、それに代わる交通機関は必要である。いなべ市では2路線の鉄道が並行して走っており、有効利用するべきであり、鉄道路線の活用に当たっては、いなべ市の中心市街地をどこにするのかの検討が必要である。また、玄関駅を集中的に整備し利便性を高めるべきであり、そうすれば駅前に求める機能は自然発生的に出てくるであろうし、利便性があれば利用者は増えるであろう。そういったことで、いなべに住みたいと思えるまちづくりを目指してほしい。

また、市全体でコミュニティバスを展開することについては無理で、20路線ほど想定し、1つ1つの路線をシュミレーションしながら、最終的に2、3本の路線が残るのではないかと考える。

【座長】

今のご意見に対して、いなべ市としての考えをお聞かせいただきたい。

【事務局】

いなべ市では現在、総合計画の基本構想策定の段階であるが、もともと大きな市街地がないため市の玄関口となるような中心市街地の設定はしていない。また、中心となる駅も現段階では設定していない。

【委員】

中心市街地活性化計画は旧北勢町で作成されていたが、新しくいなべ市としての中心市街地活性化基本計画は策定していないのか。

【事務局】

旧北勢町では中心市街地活性化基本計画が策定され阿下喜を中心市街地と設定した。しかし、合併後のいなべ市で策定する計画はない。

【座長】

いなべ市のために、さらにこうしたら良いなどのご意見をお願いしたい。

【委員】

市民が自分たちのバスだという意識が持てる公共バス交通が計画されるよう進めてほしい。

【委員】

アンケートの結果から、バスの利用者は月1回から2回の利用者を含めて10パーセント程度であった。他の交通機関の方が便利だからと自動車を利用して他のまちへ出かけてしまい、まちが空洞化し魅力を失って、将来的には子どもたちが住みたくなくなる寂しいまちになっていく。このままでいいのかと言う疑問を出発点にして、将来的に子どもや孫たちが、いなべ市に住んで良かったと感じてもらえるよう、また安心して暮らせる、学校へ行ける、病院に行けるという地域のツールとして、公共交通をみんなで考えていく必要がある。